

秋田県北東部の 歴史と伝統を貫く地域愛



＝ 農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄一 ＝

先日、コメの調査で秋田県大湯村を訪れた。帰路は1泊増やし、レンタカーで新青森駅へ向かい、新幹線に乗ることにして、初めて同県の北東部に足を踏み入れた。その狙いは、2021年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する伊勢堂岱遺跡（北秋田市）と大湯環状列石（鹿角市）、そして三内丸山遺跡（青森市）の見学である。

特に伊勢堂岱遺跡では、縄文館の展示物に目を見張らされたのと同時に、幾つもの環状列石がある高台から見渡す緑豊かな白神の山々に囲まれた空間に大感激。ここで縄文人が祭祀（さいし）を行い、天と地、自然に祈りとともに歌舞音曲をささげたであろうことが、おのずと想像された。

「秋田の奥座敷（奥秋田）」につき、ホテルよりは民宿が良いと考え、インターネットで検索して鹿角市の外れ、ＪＲ花輪線の八幡平駅そばにある民宿「あんべ」を予約。予定より早く到着したことから、おかみの薦めに



に従い、徒歩2、3分の大日霊貴（おおひるめむち）神社に出掛けてみた（写真）。大きく立派なお堂で、718（養老2）年に元正天皇の命により、名僧・行基が下向して再興したとか。しかも、そのお祝いとして行基と共に都からやって来た楽人により行われた舞楽が里人に伝えられて、今でも正月2日に祭礼が催され、周囲の4集落で受け継ぐ七つの舞が披露されているそうだ。何と1300年にわたって継承されており、2009年には「大日堂舞楽」として、ユネスコの無形文化遺産に登録された。

神社に案内人などはおらず、寄付すればDVD「今上天皇御即位三十年奉祝・大日堂舞楽」をお送りする、とのメモ書きがあるのみ。帰宅後に寄付を送金したところ、しばらくしてDVDが届いたのだが、これを見てびっくり。管弦も舞も素晴らしく、無形文化遺産に登録されていることが納得されたのである。

そして、この大日堂舞楽と伊勢堂岱や大湯の環状列石での祭祀はつながっている、いや大日堂舞楽の根っこには縄文文化が息づいていると直感した。加えて、DVDのジャケットには「大日堂舞楽保存会長・安倍良行」とあり、また民宿のおかみに確認すると、「あんべ」は「安倍」とのこと。安倍氏は平安時代の陸奥国を支配した豪族で、そのルーツは大和政権を支えた古代豪族であるともされる。ここで今上天皇御即位三十年奉祝が行われたのも、歴史的必然性があるのかもしれない。この地の歴史と伝統は深い。

民宿「あんべ」は八幡平駅周辺の空き家を活用し、喫茶店や居酒屋なども経営している。喫茶店の棚には数多くのすてきなコーヒー茶わんが並んでいた。これらはＪＲの民営化前、民宿のおかみが駅の構内で喫茶店を営んでいたときに客が自分で買ってきて使った物を、民営化に伴って新たに新店した現在の喫茶店に寄贈したのだという。このことが象徴するように、今もそこにあり、そして縄文時代から続く文化の核心にあるのは地域愛ではないか、と感じさせられた。



蔦谷 栄一（つたや えいいち）

1971年農林中央金庫に入り、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、2013年11月より現職。

〔主な著書〕

「生産消費者が農をひらく」「未来を耕す農的社会」「農的社会をひらく」「地域からの農業再興」「共生と提携のコミュニティ農業へ」（以上、創森社）「日本農業のランドデザイン」（農山漁村文化協会）